

2020年3月期 決算説明会



2020年 5月29日

株式会社 小森コーポレーション

1. 2020年3月期の業績および次期計画発表時期について
取締役管理本部長 松野 浩一
2. 2020年3月期 経営概況
代表取締役社長 持田 訓

2020年3月期の業績および次期計画発表時期について



2020年 5月29日

株式会社 小森コーポレーション

目次

P.5~7	決算概要 P/L・B/S・C/F
P.8	売上高・損益の推移
P.9~12	地域別・品目別 受注高
P.13~16	地域別・品目別 売上高
P.17	受注残高の推移
P.18	製品在庫の推移
P.19	営業損益の変動要因
P.20	設備投資・減価償却費・開発費
P.21	次期計画発表時期について
P.23~32	地域別 受注高・売上高 詳細

決算概要 P/L

(単位:億円)

		当期実績 2020/3	前期実績 2019/3	差額	前期比	通期計画 2020/3	差額	計画比
受注高		886	935	△49	95%	910	△24	97%
売上高		776	902	△126	86%	815	△39	95%
営業利益		△34	27	△61	-	△16	△18	-
経常利益		△35	25	△60	-	△12	△23	-
親会社株主に帰属する 当期純利益		△255	14	△269	-	△18	△237	-
平均レート(円)	US\$	109.10	110.69	/		108.15	/	
	EUR	121.14	128.43			119.97		
期末レート(円)	US\$	108.83	110.99			105.00		
	EUR	119.55	124.56			115.00		

主な資産・負債

(単位:億円)

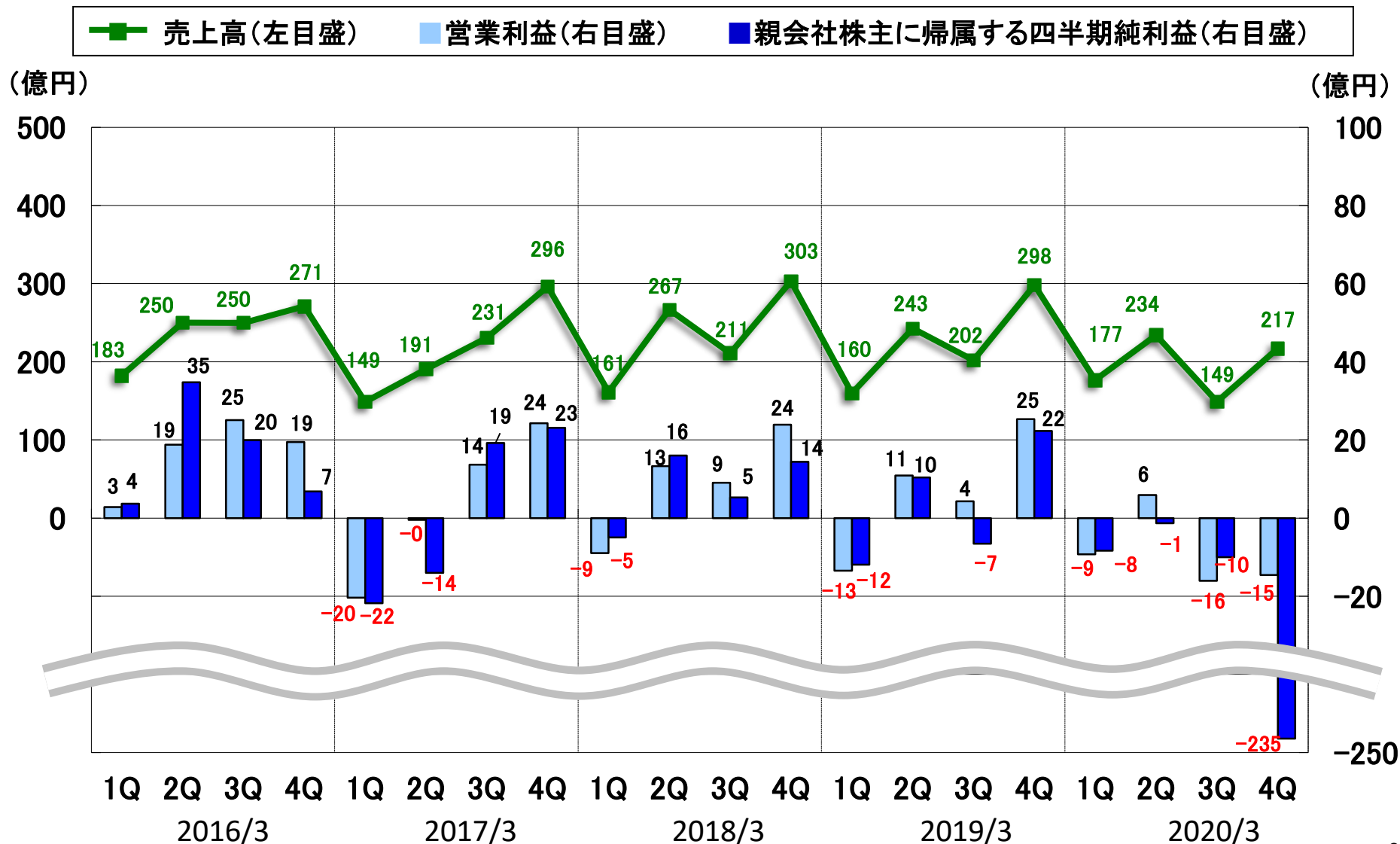
	当期末 2020.3.31	前期末 2019.3.31	差額
現金・預金	274	340	△66
売上債権	182	262	△79
有価証券	128	152	△24
棚卸資産	364	322	41
うち製品	179	133	46
有形固定資産	157	319	△163
無形固定資産	50	22	27
仕入債務	163	204	△41
短期借入金	0	0	0
社債	0	0	0
長期借入金	0	0	0
株主資本	988	1,292	△304
総資産	1,357	1,674	△317

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	当期 2020/3	前期 2019/3	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	18	1	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 36	△ 4	△ 31
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 51	△ 128	77
現金及び現金同等物の期末残高	386	457	△ 71

売上高・損益の推移

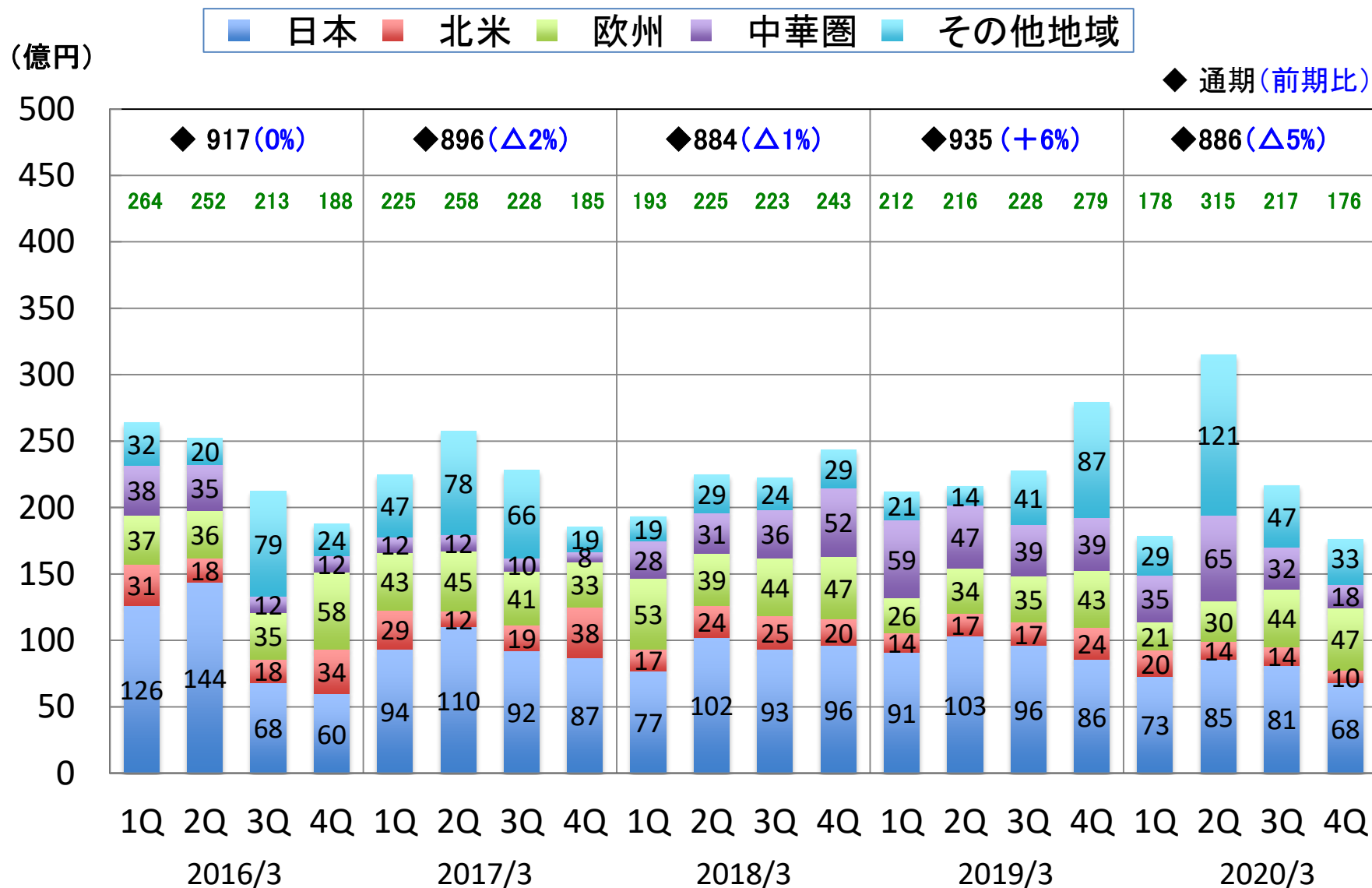


地域別受注高

(単位：億円)

	当期実績 2020/3	前期実績 2019/3	前期比	通期計画 2020/3	計画比
日 本	308	376	82%	321	96%
北 米	57	73	78%	67	84%
(百万ドル)	(52)	(66)	(79%)	(62)	(84%)
欧 州	142	138	103%	138	103%
(百万ユーロ)	(117)	(108)	(109%)	(115)	(102%)
中 華 圏	149	184	81%	161	93%
そ の 他 地 域	230	163	141%	222	103%
合 計	886	935	95%	910	97%

地域別受注高



品目別受注高

(単位: 億円)

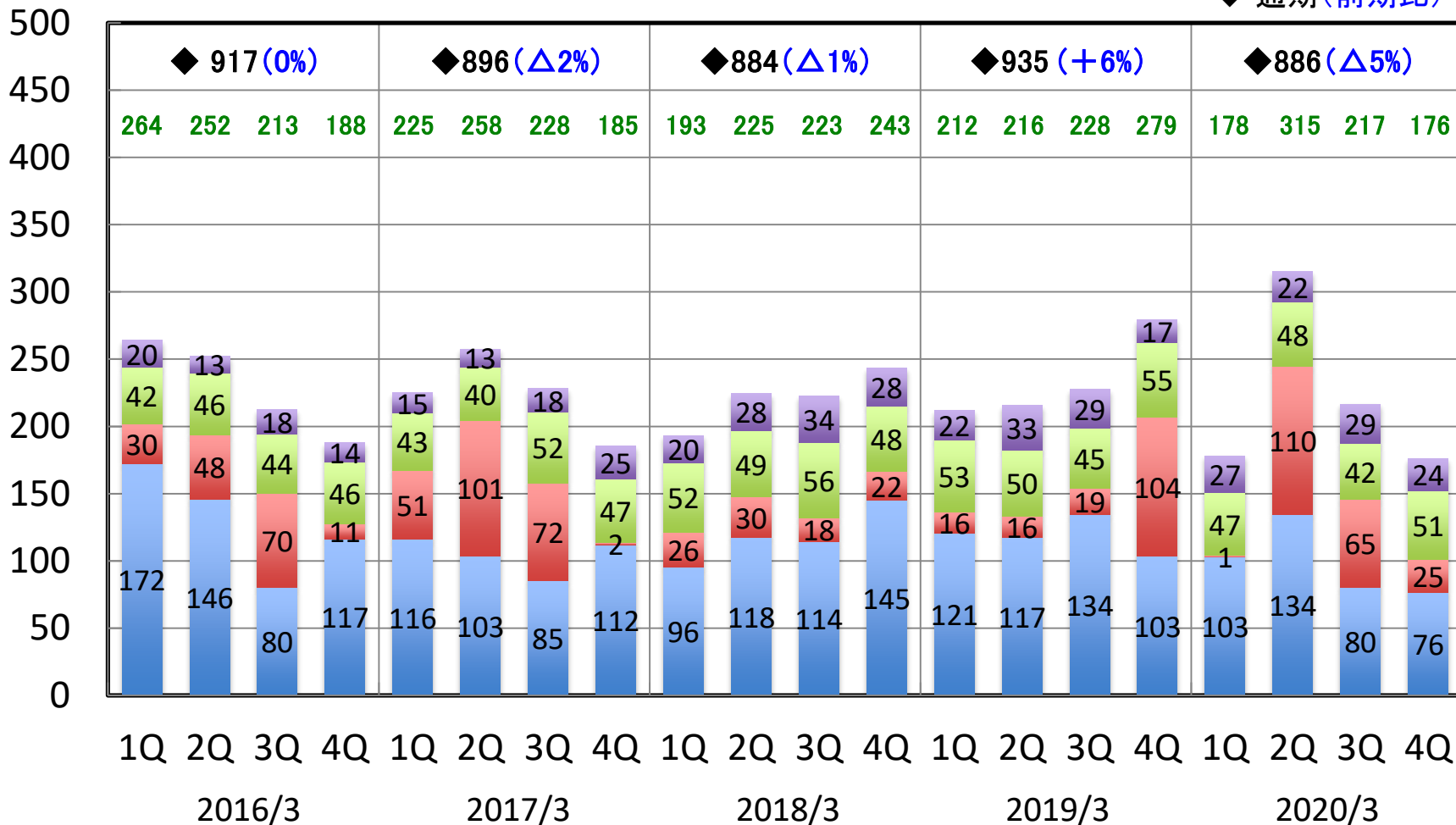
	当期実績 2020/3	前期実績 2019/3	前期比	通期計画 2020/3	計画比
枚 葉 機	394	475	83%	424	93%
輪転機・証券印刷機	202	154	130%	190	106%
中古・部品修理	188	203	92%	187	100%
DPS・PE・その他	103	101	101%	108	95%
合 計	886	935	95%	910	97%

品目別受注高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

◆ 通期(前期比)

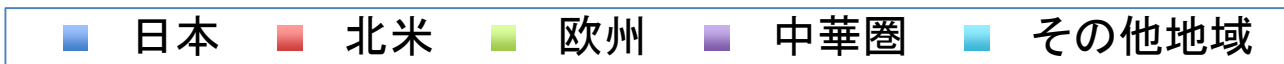


地域別売上高

(単位：億円)

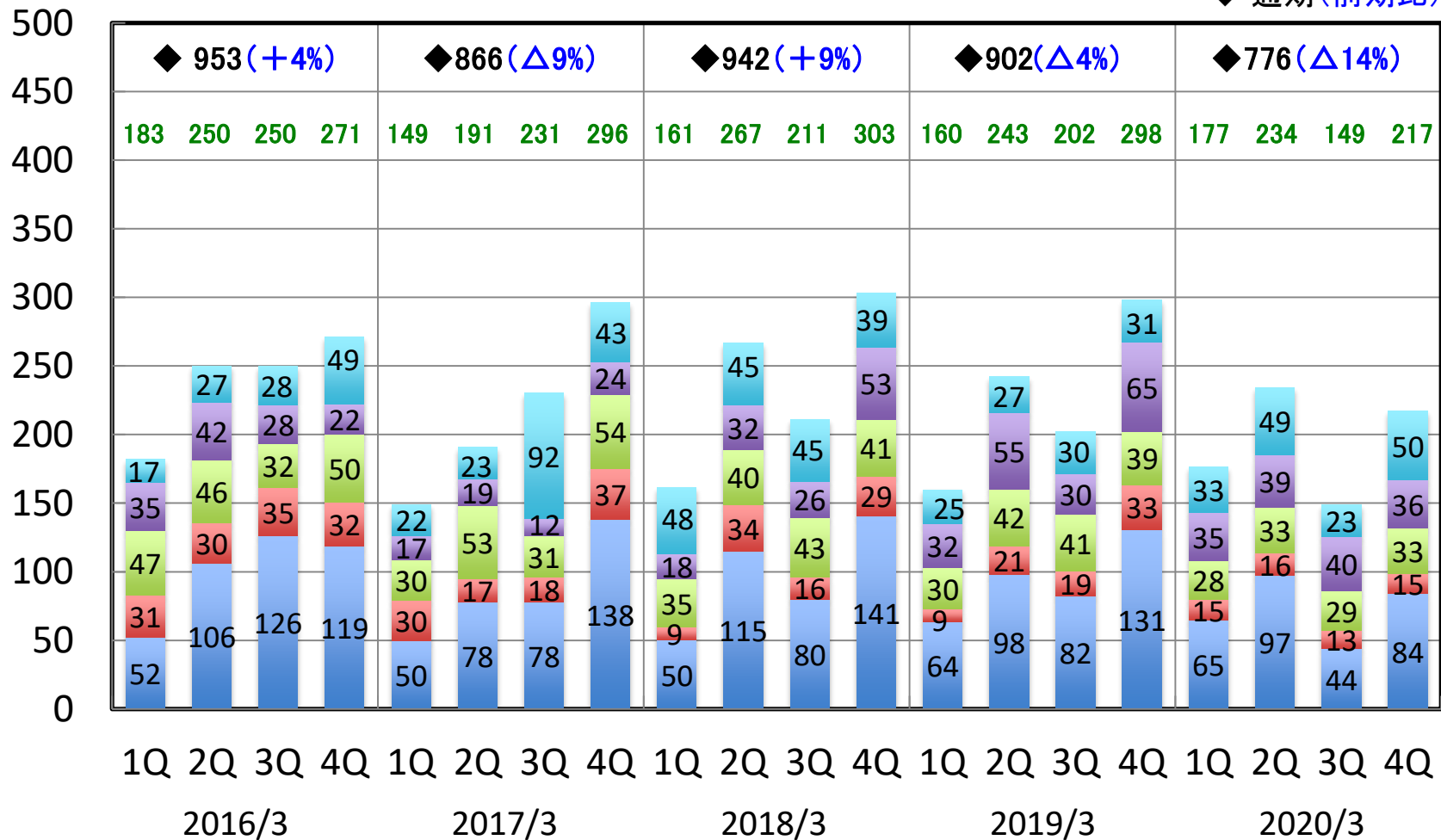
	当期実績 2020/3	前期実績 2019/3	前期比	通期計画 2020/3	計画比
日 本	290	374	78%	302	96%
北 米	59	81	73%	59	99%
(百万ドル)	(54)	(73)	(74%)	(55)	(98%)
欧 州	123	152	81%	130	95%
(百万ユーロ)	(102)	(118)	(86%)	(108)	(94%)
中 華 圏	149	182	82%	161	92%
そ の 他 地 域	155	113	137%	162	95%
合 計	776	902	86%	815	95%

地域別売上高



(億円)

◆ 通期(前期比)



品目別売上高

(単位: 億円)

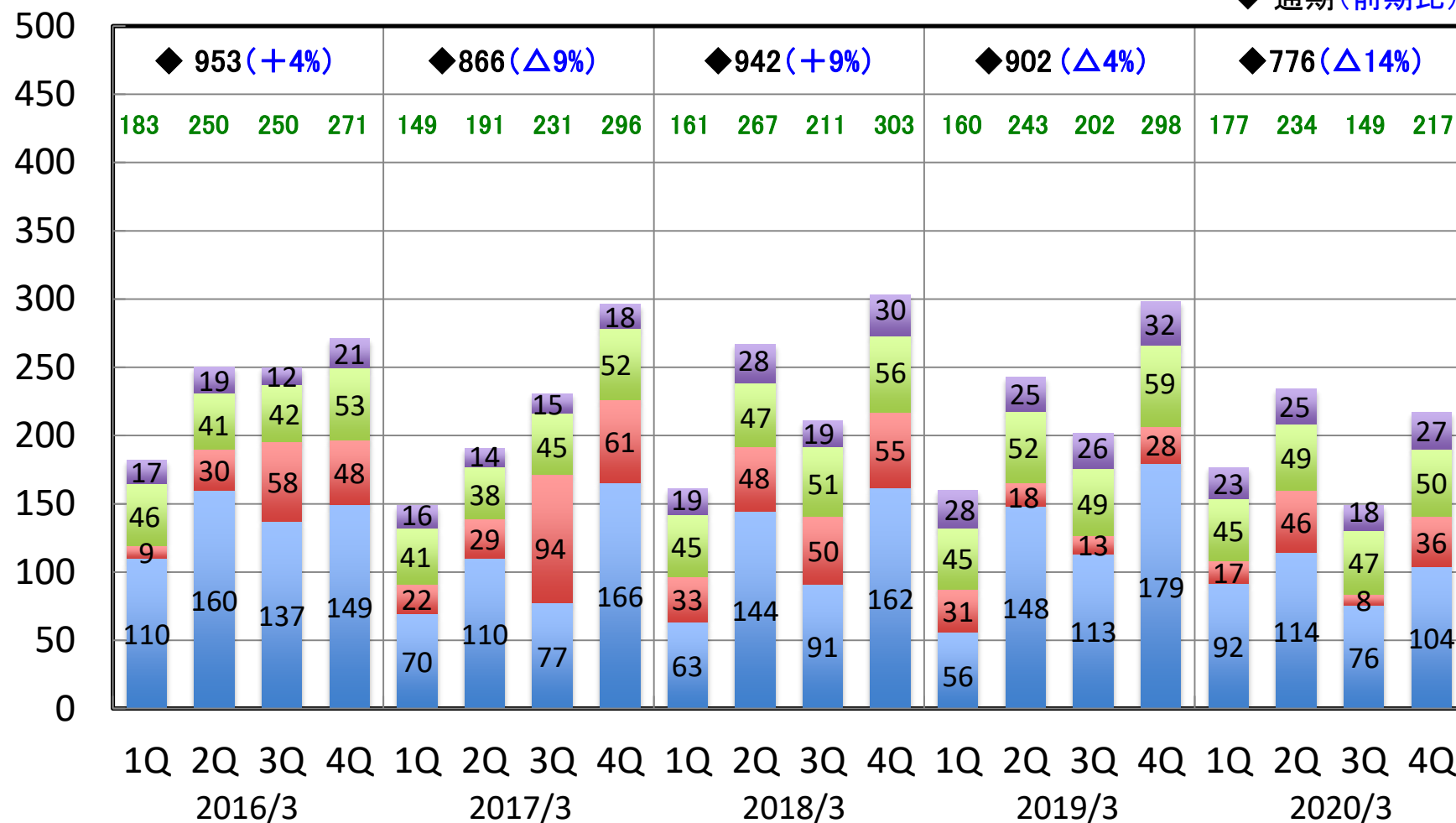
	当期実績 2020/3	前期実績 2019/3	前期比	通期計画 2020/3	計画比
枚 葉 機	386	497	78%	418	92%
輪転機・証券印刷機	107	90	119%	106	101%
中古・部品修理	190	206	93%	191	100%
DPS・PE・その他	93	110	85%	101	93%
合 計	776	902	86%	815	95%

品目別売上高

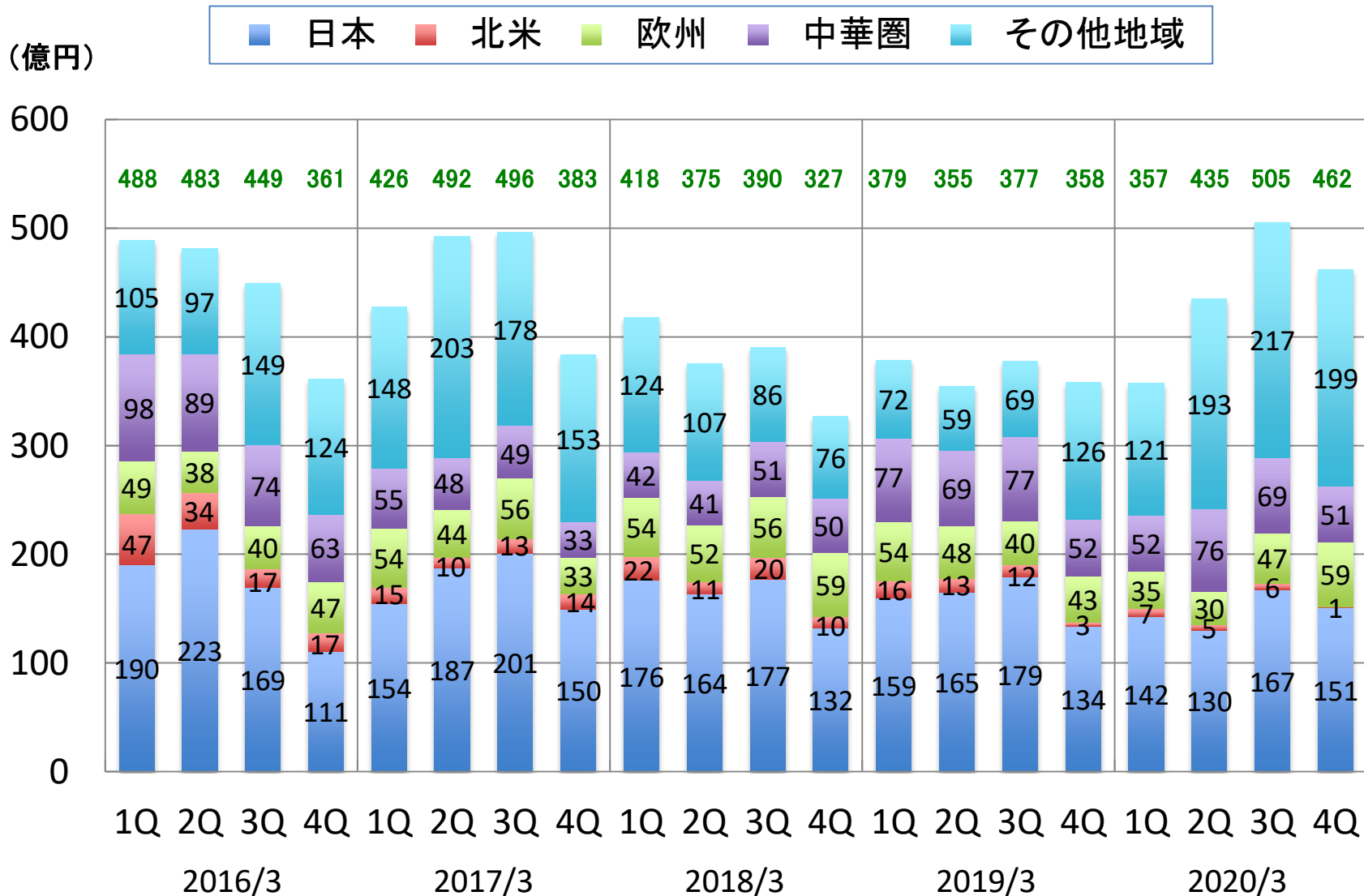
■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

◆ 通期(前期比)

(億円)

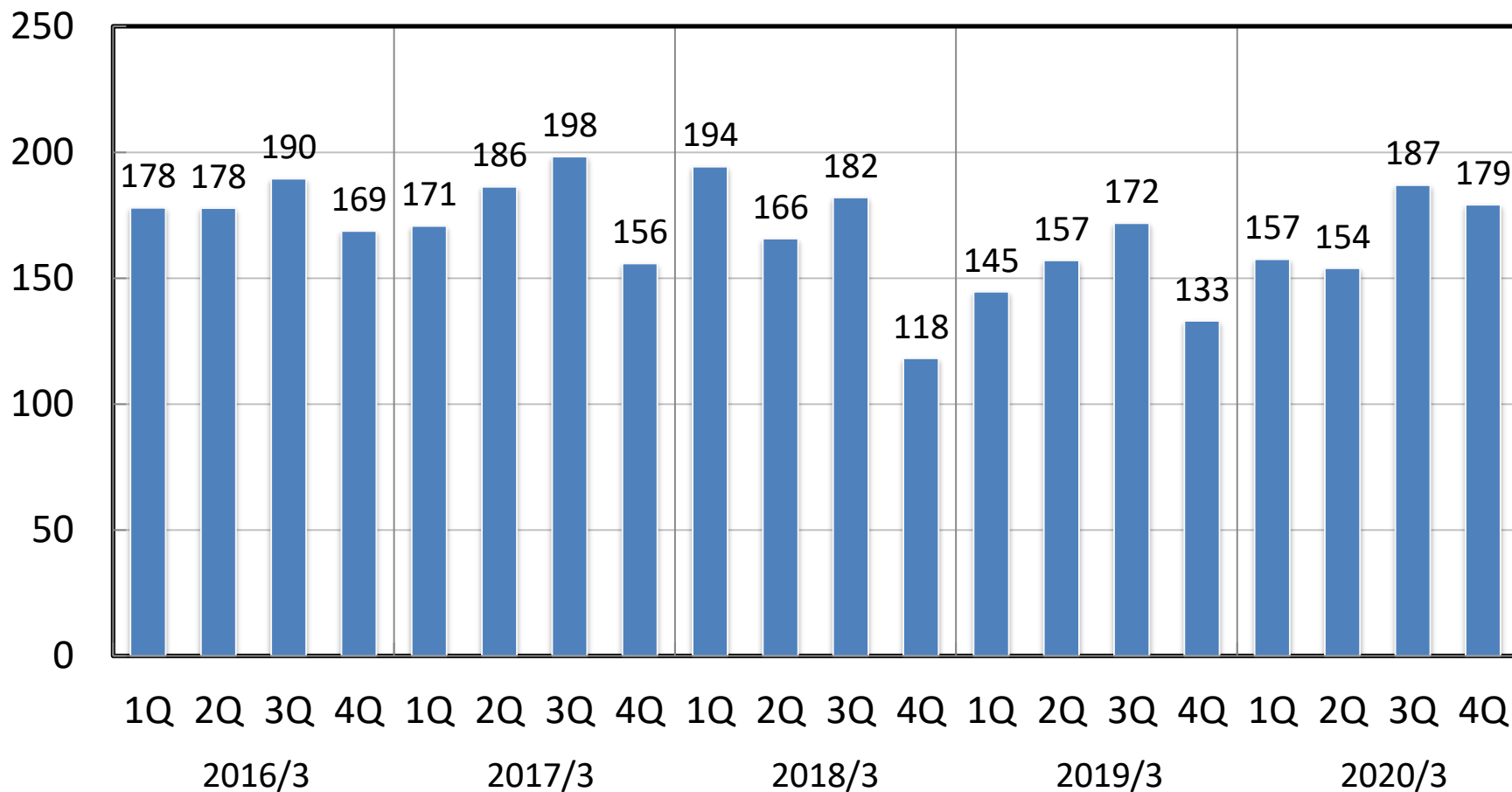


受注残高の推移



製品在庫の推移(原価ベース)

(億円)



通期営業損益の変動要因(対 前期比)



設備投資・減価償却費・開発費

(単位:百万円)

	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3
従業員数(名)	2,189	2,195	2,227	2,335	2,363
人件費	20,495	20,317	20,245	20,908	20,386
設備投資額	3,126	1,455	1,201	1,334	1,678
減価償却費	2,027	2,133	1,889	1,965	2,304
研究開発費	4,975	4,885	4,785	4,740	4,899
(売上高比)	(5.2%)	(5.6%)	(5.1%)	(5.3%)	(6.3%)

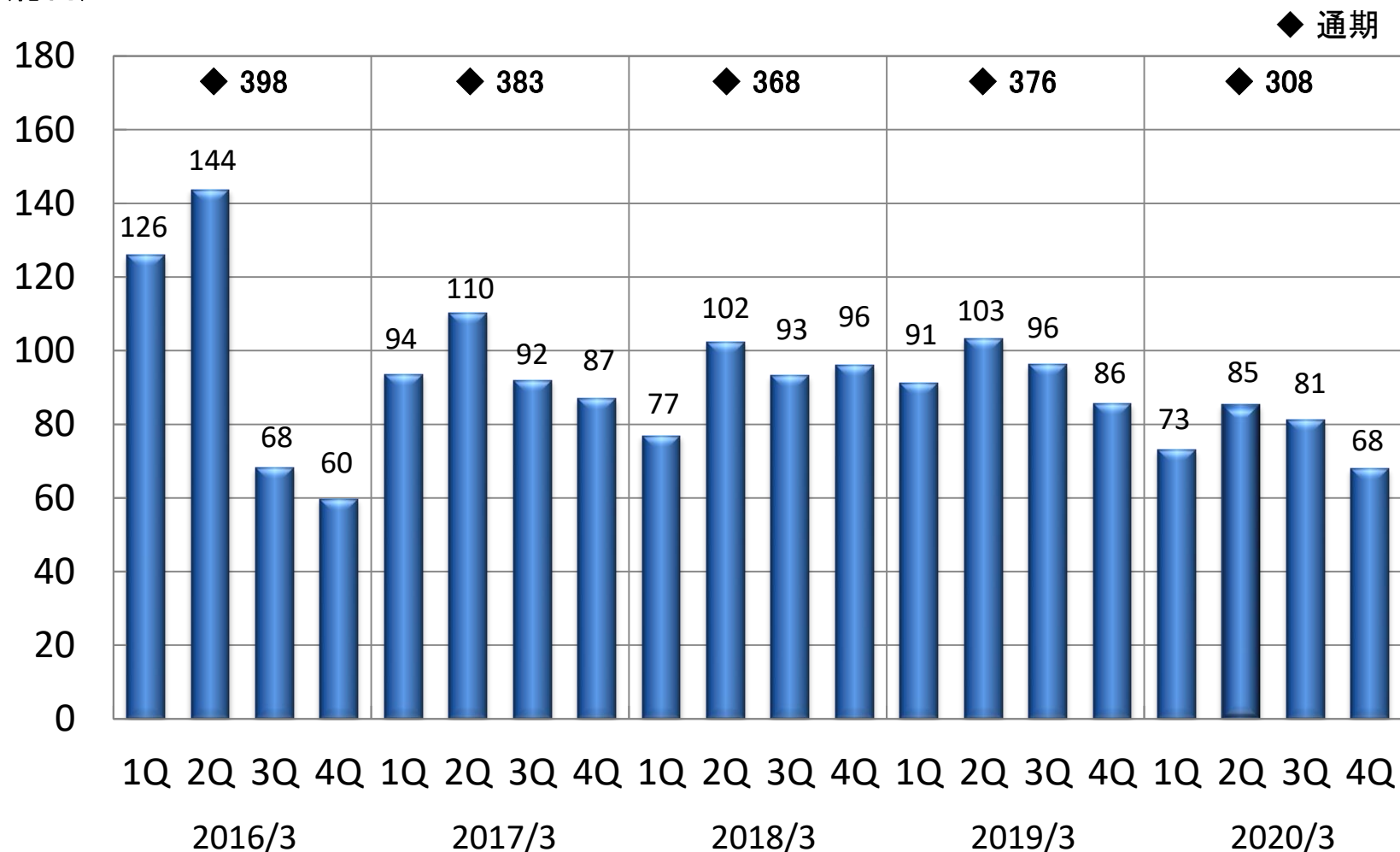
次期計画発表時期について

2021年3月期の連結業績見通しにつきましては、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を、現時点において合理的に算定することが困難であることから未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった時点で、速やかに公表致します。

参考資料
(地域別受注高・売上高 詳細)

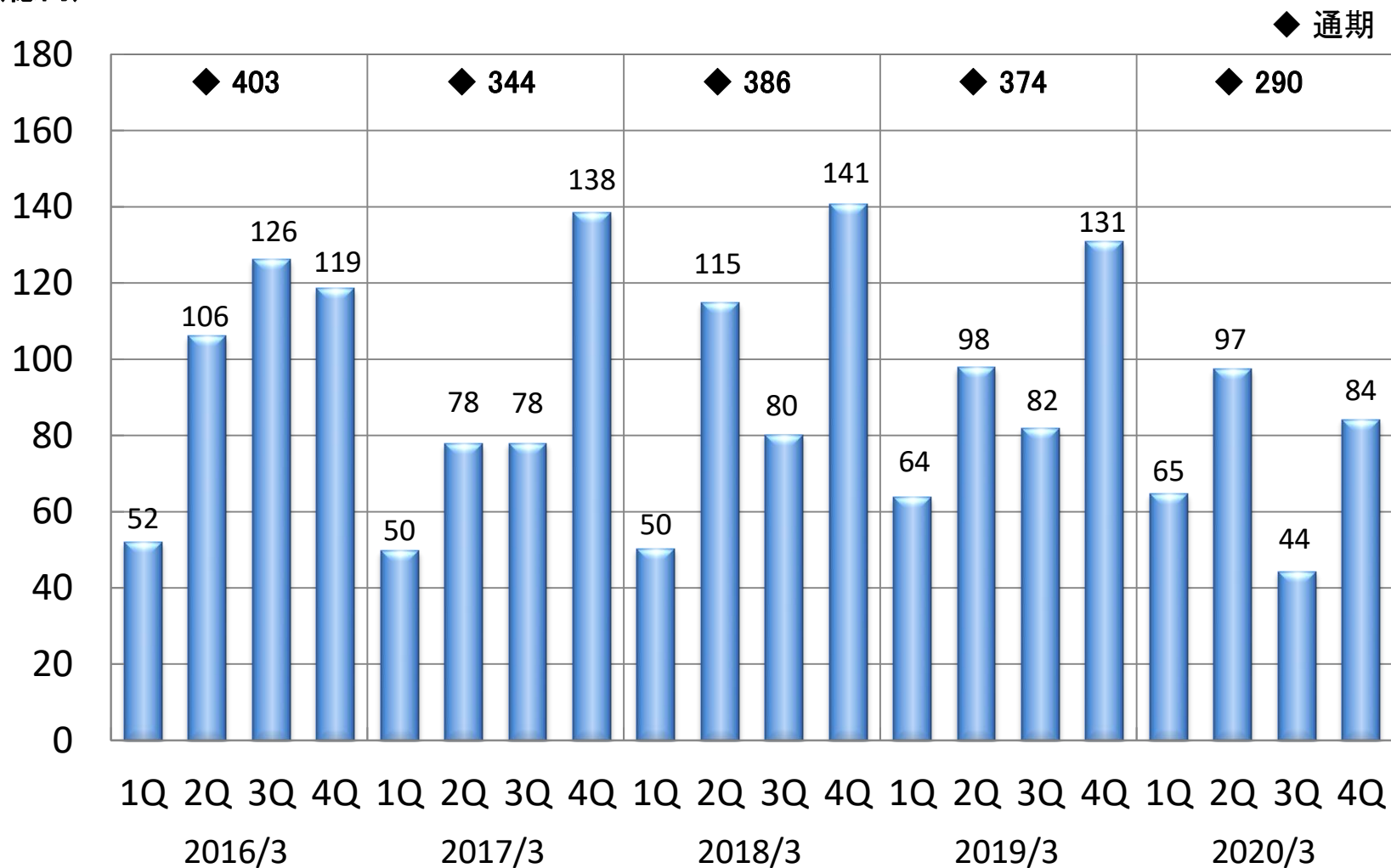
日本 受注高

(億円)



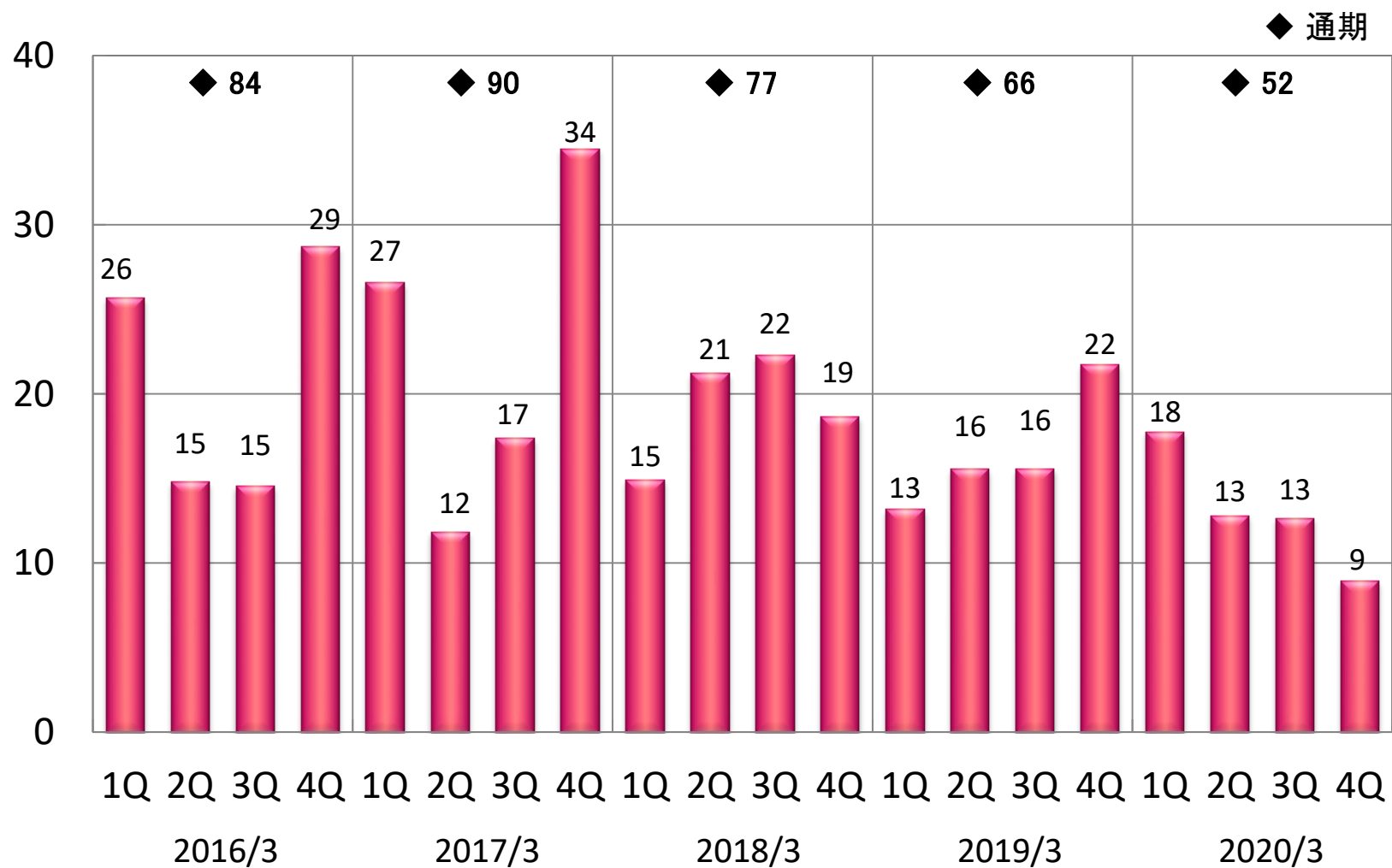
日本売上高

(億円)



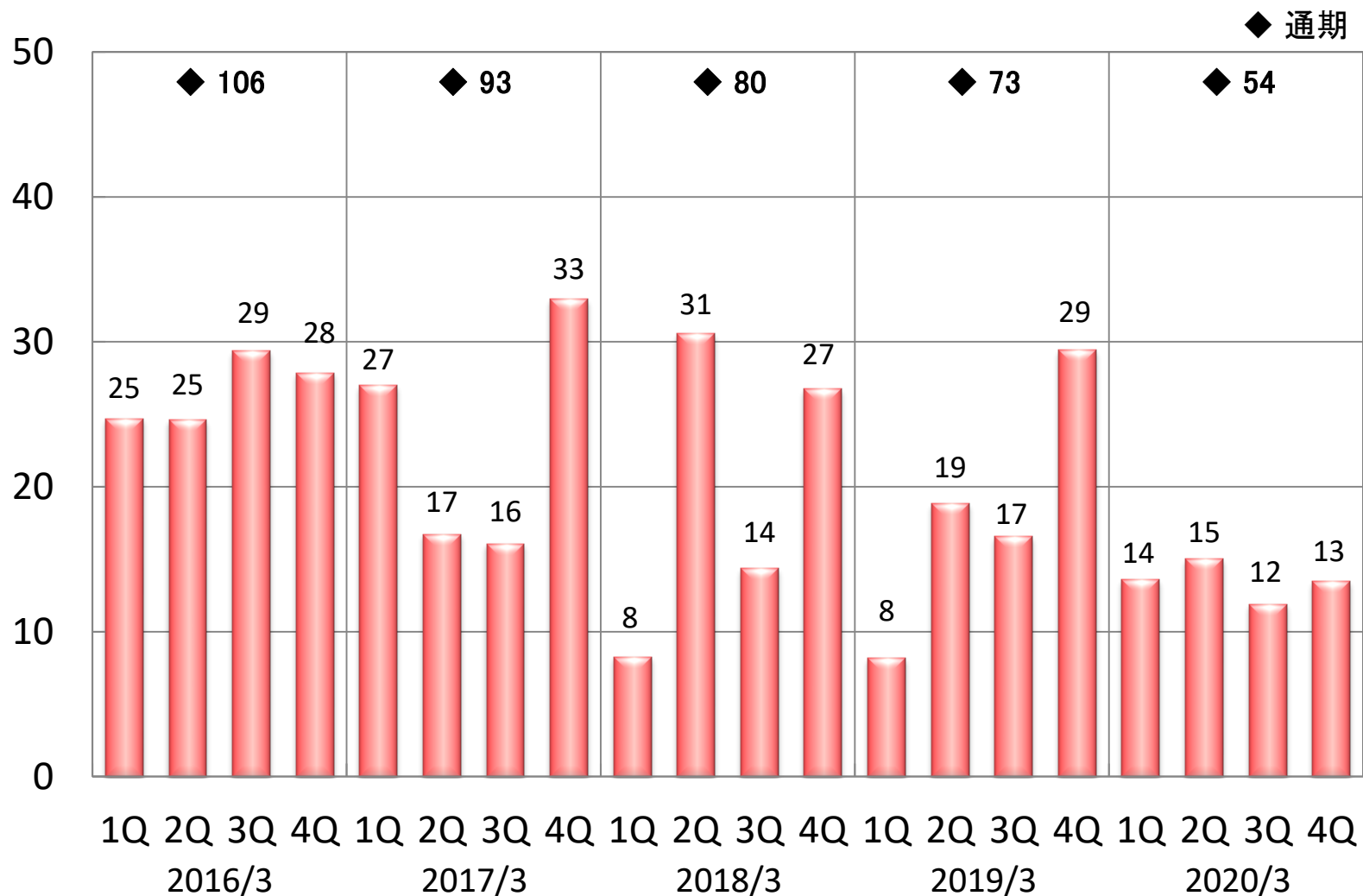
北米 受注高

(million \$)



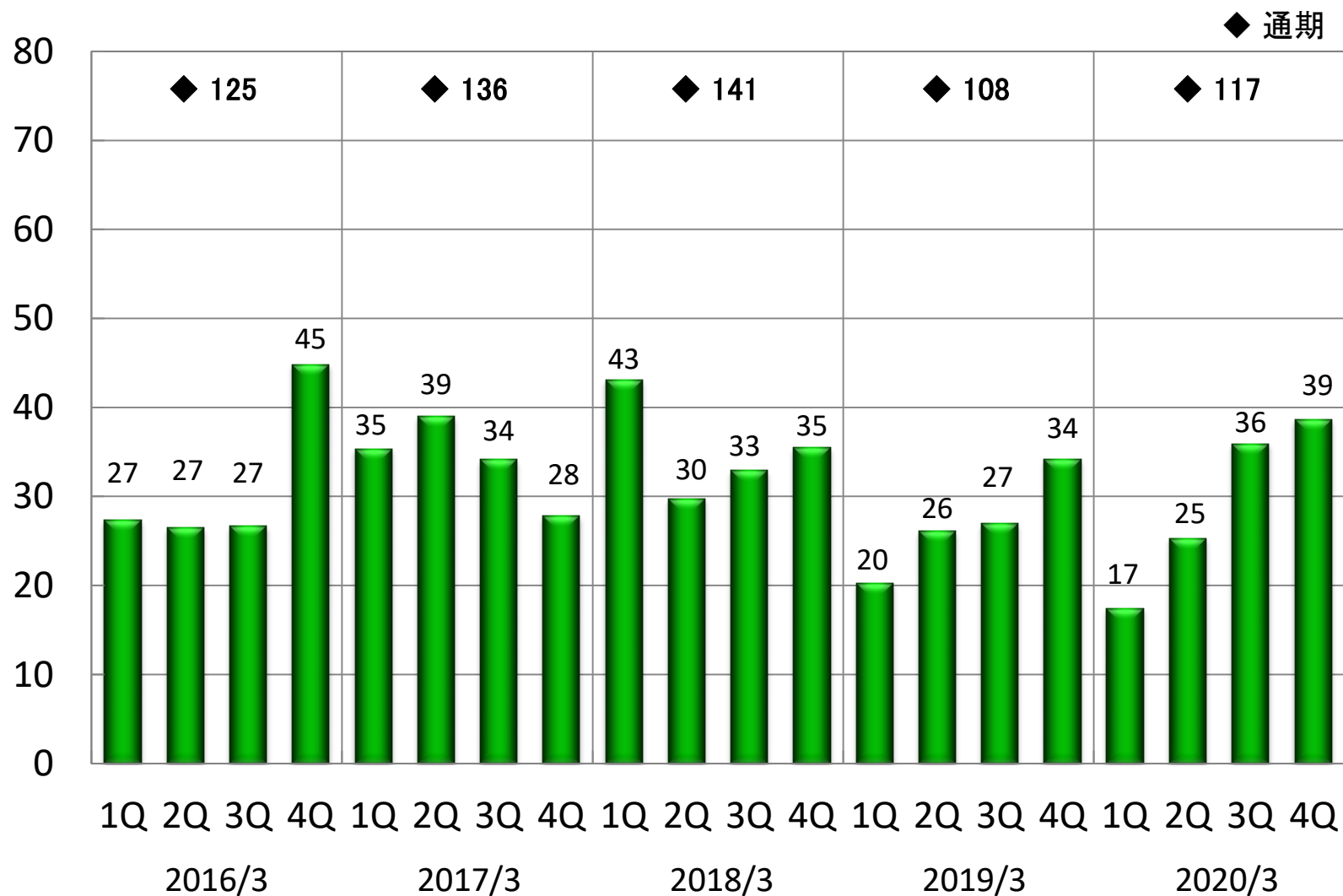
北米売上高

(million \$)



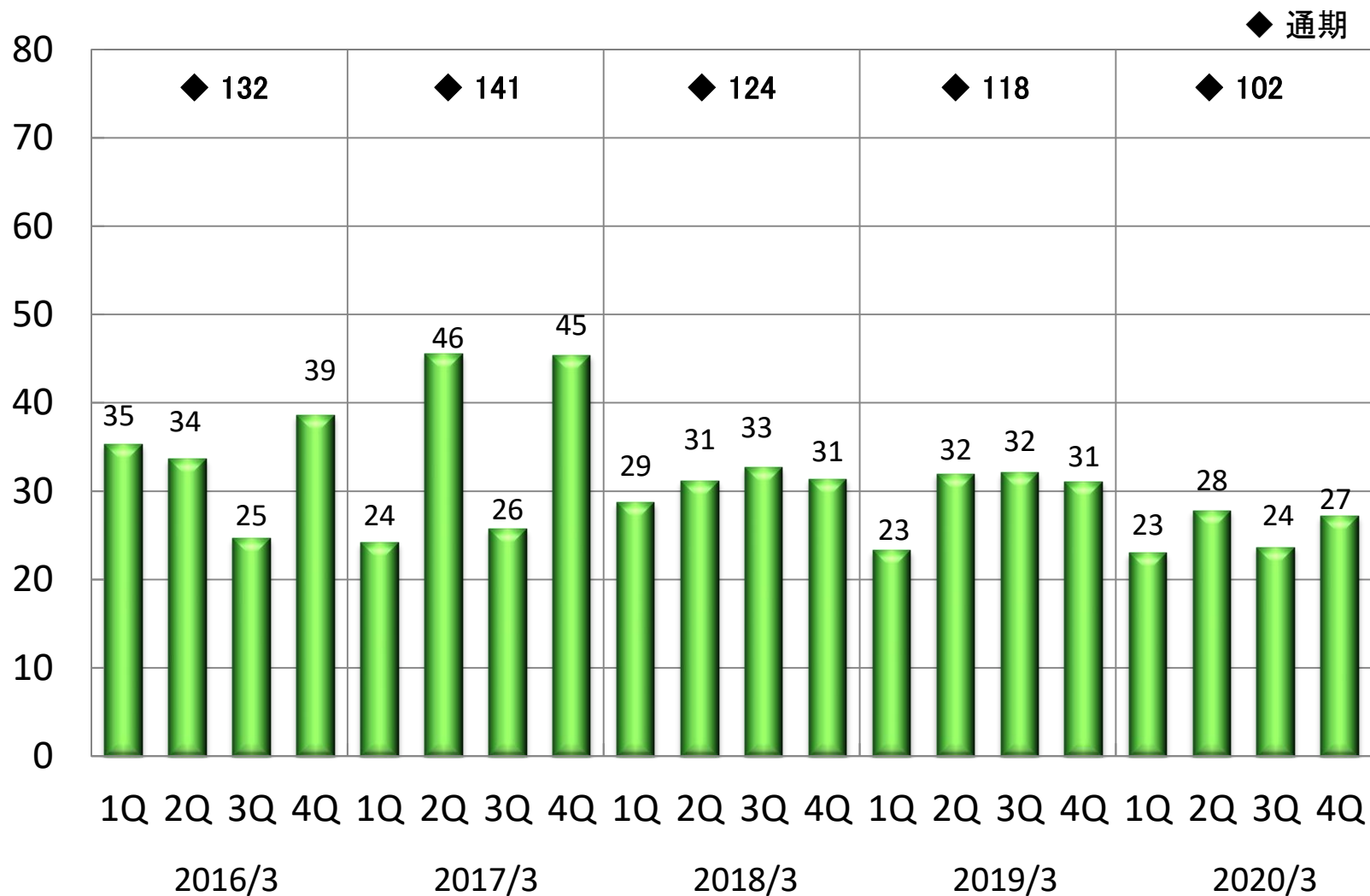
欧州 受注高

(million EUR)



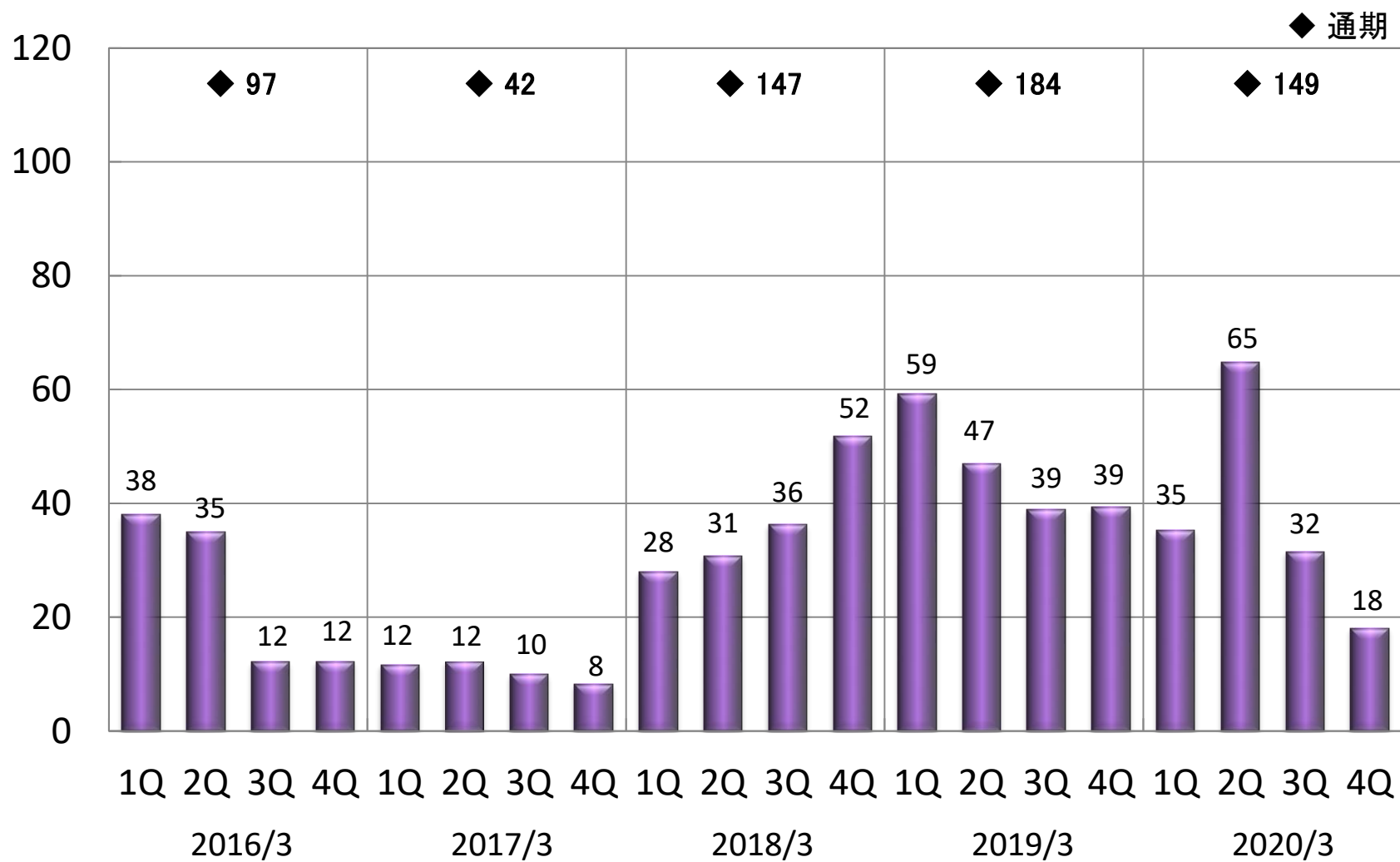
欧州 売上高

(million EUR)



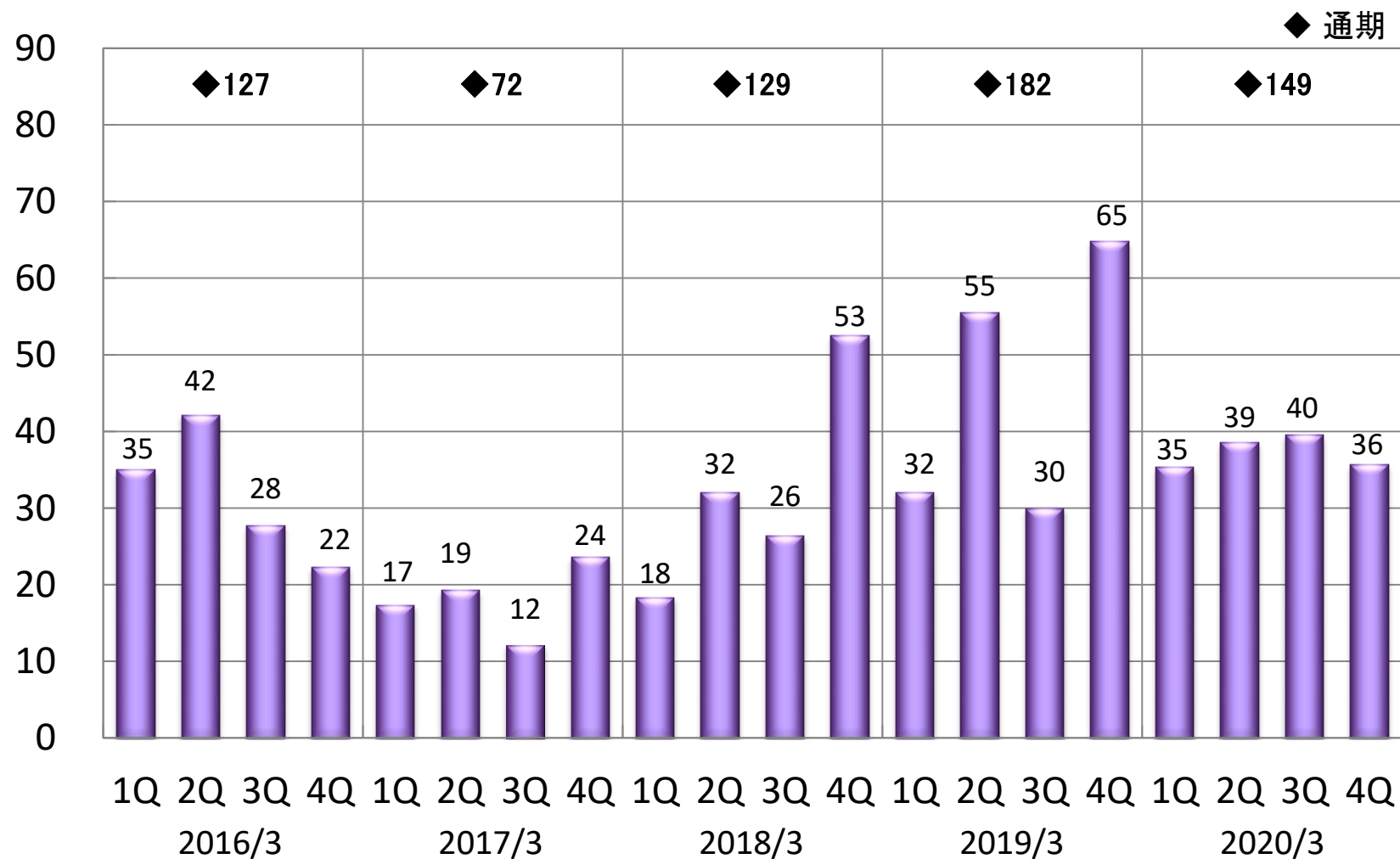
中華圏 受注高

(億円)



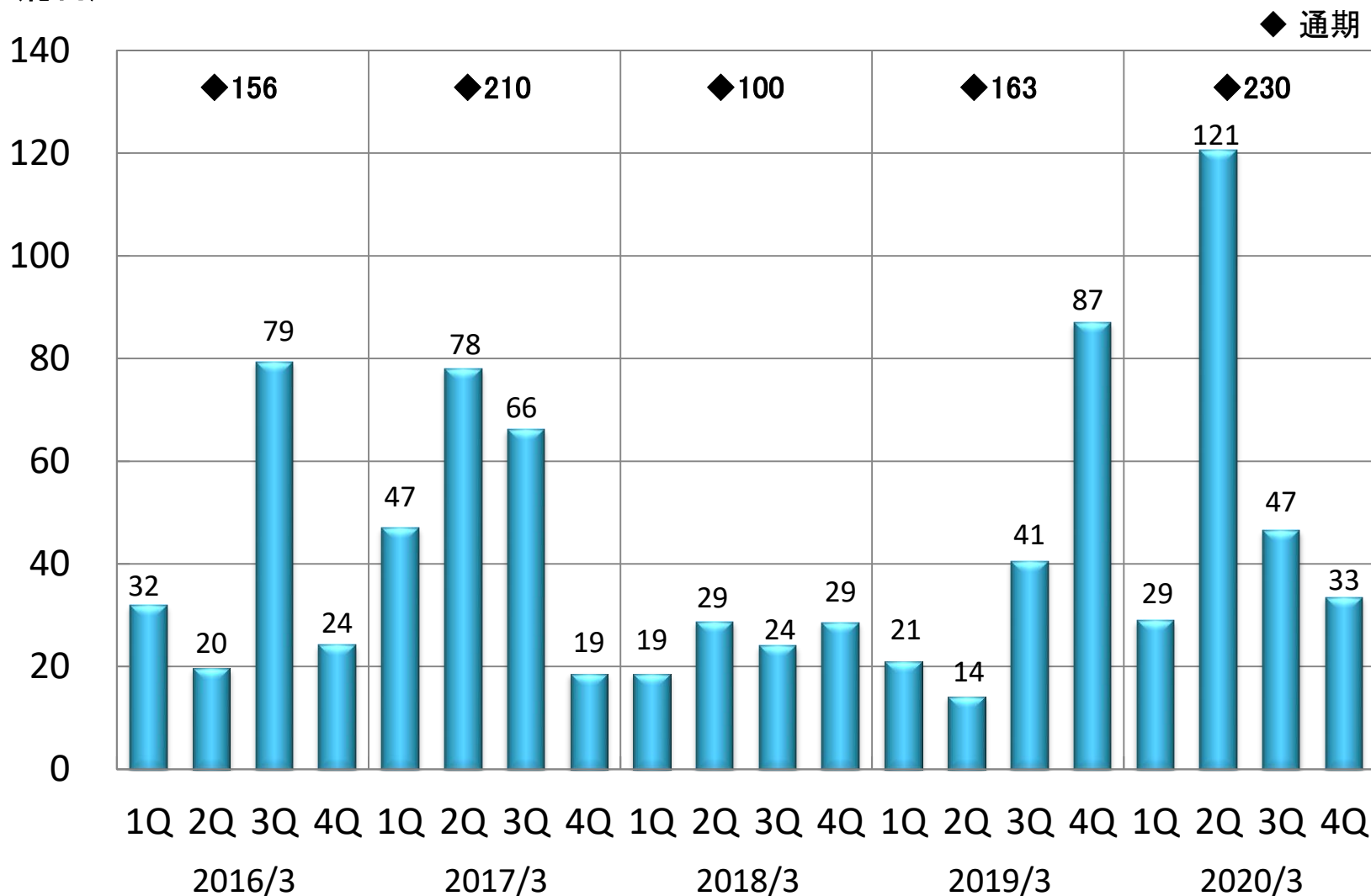
中華圏売上高

(億円)

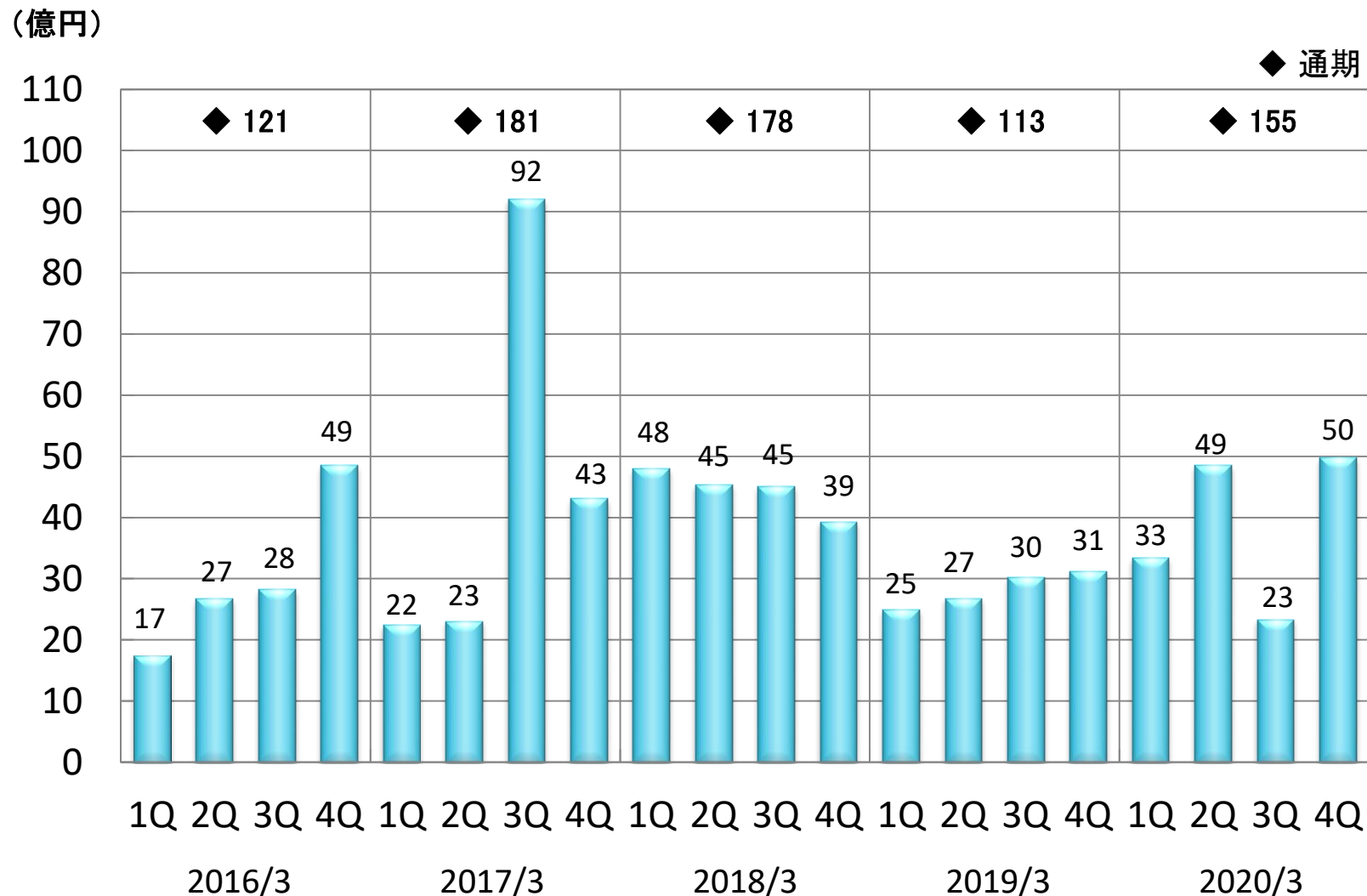


その他地域 受注高

(億円)



その他地域 売上高



第74期（2020年3月期）経営概況



2020年5月29日
(株)小森コーポレーション
代表取締役社長(CEO)
持田 訓

1. 74期（2020年3月期）業績結果
2. 緊急事業体質強化策の狙いと具体的な施策
第6次中期経営計画の取り扱いについて
3. 事業領域拡大の取組み
4. 国際展示会のご案内

§ 74期（2020年3月期）業績結果

決算概要 P/L

（単位：億円）

		当期実績 2020/3	前期実績 2019/3	差額	前期比	通期計画 2020/3	差額	計画比
受注高		886	935	△49	95%	910	△24	97%
売上高		776	902	△126	86%	815	△39	95%
営業利益		△34	27	△61	-	△16	△18	-
経常利益		△35	25	△60	-	△12	△23	-
親会社株主に帰属する 当期純利益		△255	14	△269	-	△18	△237	-
平均レート(円)	US\$	109.10	110.69	/	/	108.15	/	/
	EUR	121.14	128.43			119.97		
期末レート(円)	US\$	108.83	110.99			105.00		
	EUR	119.55	124.56			115.00		

- ◆新型コロナウイルス感染症により、オフセット事業では中国市場に影響し4Q（1～3月）計画を大きく下回った。
- ◆アジア市場を中心に紙幣需要は増加。証印事業は前年比で大きく躍進。

	74期（2020年3月期）			73期（2019年3月期）	
	計画	実績	計画比	実績	前年度比
枚 葉 機	424	394	-7.2%	475	-17.2%
輪転機・証券印刷機	190	202	+5.8%	154	+30.5%
中古・部品修理	187	188	+0.3%	203	-7.7%
DPS・PE・その他	108	103	-5.1%	101	+1.5%
合 計	910	886	-2.7%	935	-5.2%
PESP事業（内数）	(224)	(211)	-5.9%	(231)	-8.9%

- ◆基本方針： 安定的・継続的配当の維持
総還元性向80%以上,株主還元の充実

年間配当

40円 ⇒ 30円（予定）

※中間配当20円は配当済。

期末配当10円は安定配当の基本方針は継続しつつも業績悪化と新型コロナウイルス感染症による先行き不透明から期末配当の減額を定時株主総会に諮り、決議を予定。

自社株買い

26億円

※自社株買い230万株 2019年4月～10月実施
（自社株消去400万株 2019年4月実施）

§ 緊急事業体質強化策の狙いと具体的な施策

地域	74期（2020年3月期）の結果	現状
<u>日本</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・景気の不透明感と消費増税により投資マインドが冷え込む一方で、パッケージ機と自動化・省力化投資の商談は増加したが全般的に設備計画の延期が続いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬から後半にかけて各地で緊急事態宣言が解除。東京都では設備投資を後押しする補助金が打ち出されているが、現時点で効果不透明。
<u>北米</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・年末までは経済が好調に推移するなか、オフセット機への投資は依然として低調。デジタルの商談は活況であったが、競合や、drupaでの技術動向を見極めたい意向も反映された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の再開は州によってバラツキがあり、多くの州で活動に制限がある状況。失業率は戦後最悪まで悪化し、設備投資の延期が懸念される。
<u>欧州</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済が低調に推移する中、設備投資は政府の政策が大きく影響し、設備投資刺激策が講じられたイタリアと東欧は比較的好調であったものの、それ以外の地域は低調。トルコ等でオフ輪機の複数台受注を受注した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬から経済活動が再開された。欧州の中心市場でのロックダウンの長期化によって市場の回復は最低でも2Q末まで大きな影響を受ける見込み。
<u>中華圏</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・上期はPrintChina2019において多数の受注を獲得し好調なスタートを切るも、米中貿易摩擦の過熱化と年末から年始にかけてコロナウイルスの影響により特に4Qで販売活動は停止した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からの本格的な経済活動再開に伴い仕事量も回復傾向にある。特に上海、広東を中心に設備商談も増加している。輸出産業の回復が市場の完全復帰の中心課題である。
<u>その他</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア市場及びその他市場ではオフセット印刷機需要は伸びており、韓国、ベトナム、インドネシアは計画を上回った。インドは現地法人化により、前年を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの新興国は感染が拡大しており本格的な回復の目途が立っていない。 ・通貨下落により新興国での設備投資へ及ぼす影響が懸念される。

事業	74期（2020年3月期）	現状
<p><u>証印事業</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア地域での設備商談活況により国家プロジェクトの大型ライン受注獲得があり前年を上回った。（前期比122%） ・11月に開催されたH S P 横浜、弊社つくば工場見学会および内覧会の開催により、紙幣印刷業界における小森ブランドの認知度が向上し、商談促進に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙幣がウイルスを媒介するといった懸念からキャッシュレス推奨の話はあるものの、紙幣需要は衰えることなく、紙幣生産は増加傾向。 ・アジアを中心とした各国からは中止や延期等はなく引合いは好調に推移している。各国の入国規制のために搬入作業の開始時期が不透明であり、要請によって一部の地域ではWEBシステムを用いた証印機の遠隔納入を実施した。
<p><u>P E 事業</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米中貿易摩擦による設備計画見直しによって前半は前期比で受注売上が急減した。特に中国を中心に海外が不振であった。 ・後半は5 G, I o T の分野で基板関係や電子部品等の需要増加に伴い設備商談が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品は中国リスク回避のサプライチェーン見直しによりアジア各国へ生産拠点を移転する傾向から設備商談が増加傾向にある。 ・5 G, I o T の分野での基板や電子部品の需要増加は今後も継続する見通し。

◆ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響から、

- ・ 75期（2021年3月期）は計画公表を延期
- ・ 事業運営においては、第6次中期経営計画の3つの骨子を着実に推進しながらも 「緊急事業体質強化策」の推進を優先するものとする。

第6次中期経営計画の3つの骨子

「収益性向上」

「成長事業の基盤づくり」

「マネジメント体制強化及び最適資本構成の構築」

緊急事業体質強化策の推進

狙い	施策
キャッシュポジションの維持	在庫削減を目的とした生産調整の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚卸資産（原材料、仕掛品、製品）の徹底した圧縮 ・ 在庫の適正化、アロケーションの仕組み見直し
コストダウン 収益性向上	固定費を含めた総費用の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点統廃合、経費抑制、等の実行 ・ 設備投資計画全般の見直し ・ 開発テーマを厳選し開発投資効果を最大化させる。
業務効率向上 生産性向上	働き方改革による労働生産性の向上と労働時間の適性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社内会議、打合せ50%削減 ・ テレワーク、リモートワークの促進による営業活動、機械設置作業等の効率化 ・ 時差出勤による海外拠点との効率的な業務遂行
	知覚品質の向上と品質管理徹底によるムダの削減



**コスト削減目標の達成
キャッシュポジションの維持**

第6次中期経営計画の重点課題の遂行

狙い	施策
コストダウン 収益性向上	<p>「マスカスタマイゼーション」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕様標準化、モジュール化の実現による生産性向上、在庫適正化、収益力向上 <p>パッケージ戦略の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ仕様の整備と標準化、コストダウンの実行 ・ビジネスモデルの確立と拡販
成長事業の 基盤づくり	<p>Impremia N S 4 0 事業化と収益化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・βテストの成功と量産化 <p>証券印刷機事業の収益性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕様標準化、モジュール化、生産改善によるコストダウン ・P J 受注活動の促進 <p>PEの事業化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷プロセス技術を用いた商品開発
マネジメント体制 の強化	<p>業績連動型株式報酬制度（中長期インセンティブ制度）導入</p> <p>※6/26の定時株主総会に諮り、決議を予定。</p>

§ 事業領域拡大の取組み

ドイツ・MBOグループの子会社化



MBO Group head quarters

◆会社紹介

- ・名称：**MBO Postpress Solutions GmbH.**
- ・設立：2020年4月30日
- ・事業内容：印刷後加工機器及び消耗品の製造・販売・サービス
- ・取引先：60カ国以上
- ・本社：ドイツ（オッペンヴァイラー）
- ・営業/製造拠点：ドイツ、フランス、ポルトガル、アメリカ、中国

<MBOグループの主要な製品のラインナップ>

□ K8RS

- ・全自動切替コンビネーションタイプ高速紙折機



□ K70

- ・コンビネーションタイプ高速紙折機



□ T800

- ・バックル専用高速紙折機（ラウンドフィーダー）



□ UW52-770

- ・デジタル印刷機向け巻き出し装置



期待されるシナジー効果

1. KOMORI、MBO両社の販売・サービス拠点を活用したマーケティング、販売、サービス活動の強化
2. 「コネクテッドオートメーション」の実現に向け
ポストプレスアライアンスの中心的役割を担い
アライアンスパートナーとのK P-Connect連携を促進
3. KOMORI、MBO両社の強みを活かした研究開発の推進による新たな付加価値の創造
4. コスト競争力の高いポルトガル工場を活用した小森グループの生産体制強化

§ 国際展示会のご案内

◆展示会テーマ

Connected Automation

(コネクテッドオートメーション)

※インターネット技術を利用して「印刷工程を自動化・省人化し、工程間を整流化する」ことで、労働生産性を極大化させる仕組み

drupa2021

◆開催期間：2021年4月20日～4月30日

◆会場：ドイツ メッセデュッセルドルフ（ホール15）

※drupaは当初2020年6月の開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け1年延期



CHINA PRINT2021

◆開催期間：2021年5月11日～5月15日

◆会場：中国 国際展覽センター





※ 当資料では、表示未満単位を四捨五入して表示しており、内訳と合計が一致しない場合があります。